

のびる のびる きこのみみ

しょうげん じ はる こ

生源寺美子

こ ばやし よ し

絵・小林与志



創作えびんこ 17

のびる のびる きこのみみ 生源寺美子・作

1975年11月／発行©

発行者／斎藤佐次郎

発行所／株式会社金の星社



東京都台東区小島1-4-3
電話／東京03-861-1506(代)
振替／東京0-64678

写植／松竹写植

製版／株式会社ユニプロセス製版社

印刷／熊谷印刷株式会社

製本／吉田製本工業株式会社

913 生源寺美子

のびる のびる きこのみみ

金の星社 1975

60P 26.5cm

基本カード記載例

8393-039171-1406 ■乱丁落丁本はおとりかいたしますので、お求めの書店または本社へお申し出願います。

のびる のびる きこのみみ

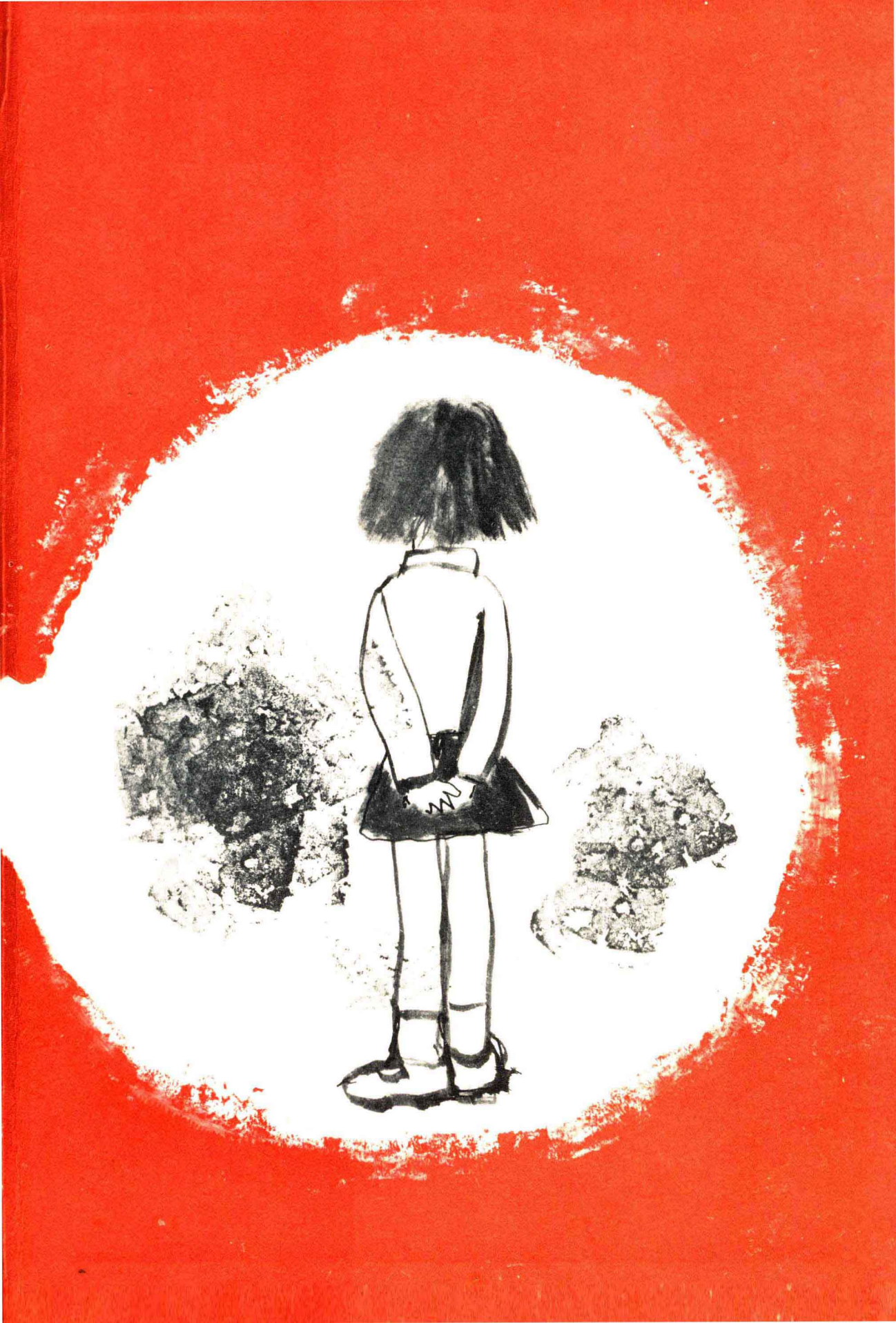
しょうげん じ はる こ

生源寺美子

こ ばやし よ し

絵・小林与志





この本の作者



しよげん しはる こ
生源寺美子

福島県出身。児童文学者協会々員。家事のかたわら、児童文学の創作を志し、現在にいたる。著書には「はじめてのおこづかい」「友だちになるとき」「マキオのひとり旅」などがある。

181 東京都三鷹市井の頭三 三十一 五

この本の画家



こばやし よし
小林与志

一九三五年東京に生まれる。洋画を学んだが、現在は主に児童図書の装幀・挿画を手がける。「はじめてのおこづかい」「ひまわり愛の花」「宇宙バス」「流れ星はきえない」等の仕事がある。

125 東京都葛飾区東金町一 三六
公団住宅一 一二二五

のびる のびる ぎこのみみ

しょうげん しほる こ こばやし よし
生源寺美子 絵・小林与志



きこの みみは うさぎの みみ

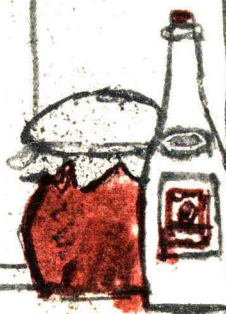
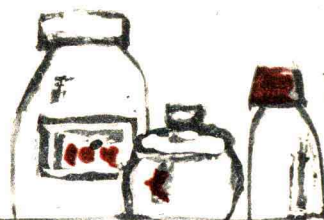
おとうさんが はやく かえってきたひの ゆうごはんは、
とても にぎやかです。

「きょうね、おとうさん、がっこうでね…。」

と、きこが いいかけると、おとうとの すすむくんも
まけていません。

きこの こえなんか けしてしまうように、おおごえを
はりあげます。

「きょうね、ぼく、ようちえんでね、としきくんとね…。」



すると、おかあさんが てを ふりながら、いいます。

「やめなさい。しずかになさいよ。ほら おしゃべりばかり
しているから、ふたりとも、ちつとも ごはんが

すすまないじゃないの」

そこで ふたりは、やつと はしを うごかします。

そうなる、こんどは おかあさんが、おとうさんに
はなしかける ばんです。

このごろの きこは、おかあさんたちの はなしが
おもしろくてなりません。

はしを うごかしながら、じつと ききいつてしまいます。
そのひも、そんな ふうにして、

おかあさんの はなしが はじまりました。



「あなたね、たえちゃんの
おとうさんね、ほら、

このあいだの

ちちおやさんかんびで あった

あのかた、いしおかさんよ。』

きこと たえちゃんは、

おなじ くみです。

なんだか おもしろそうな

はなし。

たえちゃんの おとうさんが

どうしたんだろ。





きこのみみは、めには みえないけれど、ぐーんと
うさぎの みみの ように、ながく のびていきます。

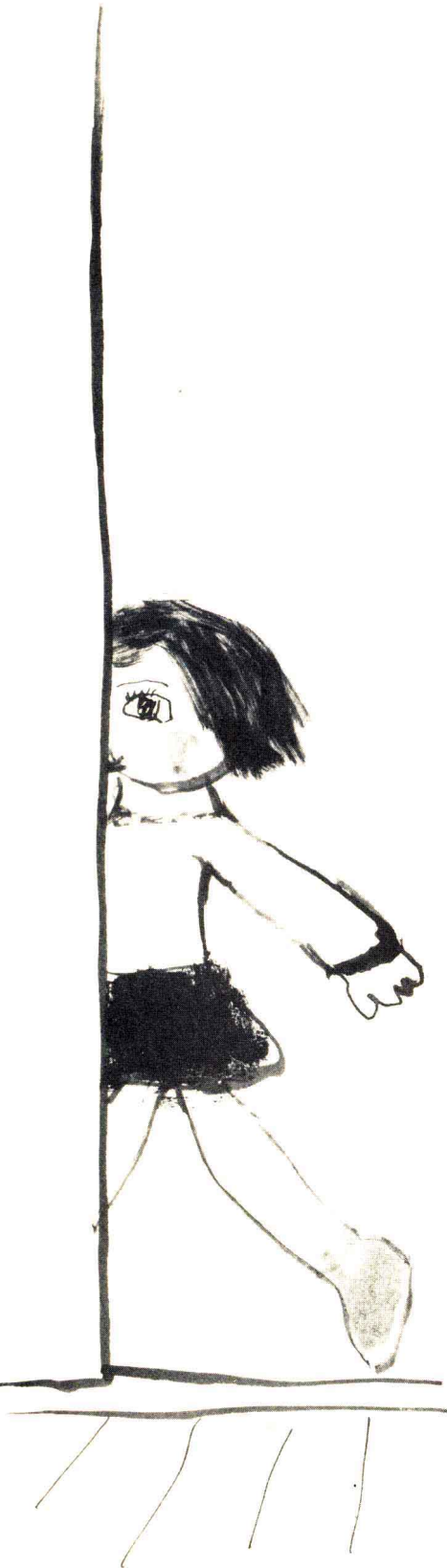
「ええっと、いしおかさん、ああ ああ、あの ちよつと
かわった ひとだな。」

と、そのとき すすむくんが、

「おかあさん、おみず ちようだい。」

と、いいました。

「きこちゃん、もってきて やってよ。」



きこが おだいどころへ 行って、コッポに みずを
くんで、もどって きたとき、おとうさんが、

「これ、なかなか うまいな。」

と、おかずの ハンバーグを つまみあげました。

「いつもと つくりかたを かえてみたのよ。」

と、おかあさんが いいました。

あれっ。いつのまにか、べつのはなしに なっています。

きこは、さっきのはなしの つづきが ききたいので、

「ねえ、たえちゃんの おとうさん どうしたの。」

と、おかあさんに ききました。

「どうも しませんよ。しってるのって おとうさんに

きいただけよ。」



「ふーん そう。」

きこは あてが はずれて、 がっかりしました。

すすむくんの おかげで、 ちよっと そんなを したような
きがしました。